

報道機関 各位

東北大学災害科学国際研究所
東北大学大学院医学系研究科

COVID-19 対策としての行動規制は 研究者の研究に対するモチベーションの低下や 将来への不安を引き起こしている

【発表のポイント】

- ・新型コロナウイルス感染症対策としての行動規制（COVID-19 規制）が研究者に及ぼした影響についてアンケートによる実態調査を行いました。
- ・全国の 10,557 名（研究者・非研究者双方を含む）を対象とした調査では、COVID-19 規制下で、仕事へ影響があった、ハラスメントを受けた・与えた割合が、いずれも研究者グループで高い結果となりました。
- ・研究者 300 名に対する追加調査では、研究モチベーションの低下等に関する項目で、性別により回答に差がみられました。また、コロナ禍で 3 密環境での研究やオンライン授業の負担など、将来の不安に関する様々な問題も明らかになりました。

【概要】

新型コロナウイルス感染症 COVID-19 は、人々の行動や気持ちにさまざまな影響を与えており、研究者もその例外ではありません。東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）の三木康宏 講師ら研究グループは、COVID-19 対策としての行動規制（COVID-19 規制）が研究者へ与えた影響に関するアンケート調査を行いました。全国の調査対象者 10,557 名からの回答結果を研究者・非研究者のグループ別に分析したところ、COVID-19 規制下において、仕事への影響があった、ハラスメントを受けた・与えた割合は、研究者グループでより高い結果となりました。さらに、研究者 300 名に対して研究モチベーションに関する調査を行ったところ、ハラスメントを受けた割合や研究モチベーションの低下等に関する項目について、性差がみられました。自由記載回答で、将来の不安につながる様々な問題も明らかになりました。

本研究成果は、2020 年 11 月 19 日、Progress in Disaster Science 誌に掲載されました。

【本研究に関する問い合わせ先】

東北大学災害科学国際研究所 講師 三木康宏

TEL: 022-273-6284 Eメール: miki@irides.tohoku.ac.jp

【報道関係者お問い合わせ先】

東北大学災害科学国際研究所 広報室 中鉢奈津子・鈴木通江

TEL: 022-752-2049 Eメール: koho-office@irides.tohoku.ac.jp

【詳細】

東北大学災害科学国際研究所（IRIDeS）の三木康宏 講師、中鉢奈津子 特任准教授、今村文彦 教授、伊藤潔 教授、同大学院医学系研究科の八重樫伸生 教授らの研究グループは、新型コロナウイルス感染症対策としての行動規制（COVID-19 規制）による、研究者の研究モチベーションや将来に対する不安などの心理への影響を調査しました。

新型コロナウイルス感染症禍において、感染防止のための規制による不自由な生活を余儀なくされてきました。「不要不急」の外出が制限される中、研究活動も例外ではありません。COVID-19 規制によって研究者が負の影響（ハラスメントを含む）を被った場合、コロナ禍が終息してもその影響は長期にわたり、さらなる研究活動に支障をきたすのではと懸念されます。その問題意識のもと、本研究では、COVID-19 規制が研究者に及ぼす影響について実態を明らかにするための調査を行いました。

まず、全国の 20 才以上の 10,557 名（うち研究者：1,963 名）を対象とした調査（期間：2020 年 6 月 15 日から 19 日）を行い、結果を分析したところ、COVID-19 規制下において「仕事もしくは研究活動への影響があった」、「ハラスメントを受けた・与えた」の割合が、いずれも研究者のグループでより高い結果となりました。

さらに、上記調査対象者のうち研究者 300 名（学術機関・企業双方を含む）に対し、研究モチベーションに関するより詳細な質問を行いました。その結果「ハラスメントを受けた」とした割合は男性よりも女性で高く、研究に対するモチベーションの「著しく低下した」と「低下した」を合計した割合も女性で高かったのに対し、「著しく低下した」の割合だけで見ると、女性よりも男性で高かったことが判明しました。さらに、COVID-19 規制による研究活動の制限が高かったグループでは、「将来の不安」と「研究モチベーションの低下」がいずれも高いことが明らかとなりました。また、上記研究者 300 名からの将来の不安等に関係する自由記載回答を分析したところ、このコロナ禍で 3 密環境での研究やオンライン授業の負担など、研究者の様々な問題が挙げられていました。

研究者は研究資金の獲得や業績へのプレッシャー、ポストの確保など、常に不安定な心理にあると言われていています。今回の調査から、COVID-19 規制がさらにその不安定な状況に拍車をかけたのではと考えられます。今後、より詳細な調査を行い、コロナ禍における研究者のサポートの重要性を明らかにしていきたいと考えています。

本研究は東北大学災害科学国際研究所、同 医学系研究科、同 災害科学世界トップレベル研究拠点の共同研究として実施され、2020 年 11 月 19 日、Progress in Disaster Science 誌に掲載されました。

【掲載論文】

Impact of COVID-19 restrictions on the research environment and motivation of researchers in Japan
Yasuhiro Miki¹, Natsuko Chubachi², Fumihiko Imamura³, Nobuo Yaegashi⁴, and Kiyoshi Ito^{1,5}
Progress in Disaster Science, <https://doi.org/10.1016/j.pdisas.2020.100128>.

著者：三木康宏¹，中鉢奈津子²，今村文彦³，八重樫伸生⁴，伊藤 潔^{1,5}

著者所属：東北大学災害科学国際研究 災害産婦人科学分野¹，広報室²
津波工学研究分野³

東北大学大学院医学系研究科 婦人科学分野⁴

東北大学災害科学世界トップレベル研究拠点⁵